

**地域密着型サービス 運営推進会議 報告書**

事業所名：特別養護老人ホームしおさい新館

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

日時：令和4年8月5日（金曜日）10時00分～11時00分

場所：しおさい会議室

出席者：7人

利用者代表	0人	知見を有する者	0人
利用者家族	1人	大田市職員	1人
地域住民の代表	2人		
事業所職員（職名：施設長 主任 リーダー）			3名

報告事項：

利用状況

- ① 入所者の人数 20名（退所0名 入所0名 定員20名）
- ② 要介護度 要介護5 10名 ・ 要介護4 7名  
要介護3 3名 ・
- ③ 男女比率 男性5人 ・ 女性15人
- ④ 年齢 63歳～98歳 平均88.0歳

介護状況

- ① 起き上がり全介助 20名
- ② 胃瘻 0名
- ③ 排せつ全介助 20名
- ④ チェアインバス：ストレッチャー入浴 15名：5名
- ⑤ 肺炎入院 0名
- ⑥ 褥瘡 1名（病院で形成 徐々に改善）
- ⑦ 重度拘縮 1名
- ⑧ 苦情相談 0件
- ⑨ 身体拘束 0件
- ⑩ 受診以上の介護事故 0件

## 1、施設長挨拶

世の中ではコロナが蔓延しており事業所ごとにも入っている。家族で陽性反応があり、出勤停止のケースが相次いでいる。職員も不足しているので早く収まればと思っている。面会室を設置する件に関して 9 月以降に導入予定。エアコン、陰圧装置も入れて空気が滞留しないようにする。本館、新館用で 2 室設け、対面で面会ができるように準備しているので今しばらくお待ちいただければと思う。

## 2、新型コロナウイルス感染症対応状況

		しおさいの状況	
利用者罹患	なし		
職員罹患	本人	7/19	非同居家族が会食後に陽性濃厚接触者と判定 念のため関わりのあった利用者 1 名 マスク着用、他者と距離を置いた生活 依頼 → 同居家族全員陰性
		7/23	同居家族に陽性者 1 名 濃厚接触者と判定 → 陰性 職員は陰性 28 日まで休業。
	家族	7/4	自宅訪問した親族が陽性 → 同居家族全員陰性 5 日は出勤自粛、6 日は別室勤務
		7/21	家族に濃厚接触疑い者 → 家族全員陰性 職員 25 日まで出勤自粛。

面会	現在 直接面会・窓越し面会 家族用オンライン面会予約サイト設置。
外出希望	お盆に向けて一時外出希望あり。  利用者利益と全体の感染リスク低減のバランスを勘案中。 別紙案を検討中。 本会議にて意見を伺いたい。
備品	医療用簡易抗原検査キットの備蓄 特養 約 60 回分 本部 100 回分
検査協力	法人他事業所の陽性者発生時は、当施設看護職員も保健所の検査に協力。責任所在を明確にする観点から利用者宅、他法人事業所訪問時にはごみは必ず持ち帰っている。
家族等通知	期間中特別な家族への通知なし。 LINE公式アプリの活用。20 名中 7 名登録。今後はメールアドレスでも可能にしていく。

## 利用者面会及び外出基準(案)

リスク	面会・外出の例	しおさいの対応	
低リスク	① 窓越し面会 ② 職員との敷地内散歩	原則対応	観察・制限なし

中リスク	① 職員介助による外出 例:病院受診、選挙  ② 他施設からの入所	必要に応じて対応	健康観察(3日間)  ( ・概ね居室対応 ・マスク着用 ・離れて食事 等 )
高リスク	① 直接面会(静養室)  ② 狭い密閉空間に同席する ドライブ  ③ マスクを外す交流 例:飲食を伴う交流、外泊	原則おことわり (例外措置あり)	みなし陽性対応(3日間)  ( ・居室対応(居室食) ・他者交流ゼロ ・職員防護服着用 等 )
<p>中リスク・高リスク対応への例外措置</p> <p>※1 主治医から看取り診断を受けている利用者の家族は一定のルールのもと直接面会可。          市内在住者、風邪症状なし、週1回2名15分、マスク・手袋等着用</p> <p>※2 外出等の前に家族等全員の簡易抗原検査(自己負担)による陰性結果の提示あれば、          健康観察(3日間)、みなし陽性対応(3日間)なし。</p> <p>※3 外泊の場合は※2に加えて帰所日に家族等全員及び利用者の陰性結果(自己負担)の          提示も受ける。陰性結果あればみなし陽性対応(3日間)なし。1名でも陽性の場合          は受入れ不可。</p> <p>※4 3日間以上感染発生していない法人事業所の職員とその同居者の場合は検査不要。</p>			

○利用者面会及び外出基準(案)に関して

・(介護主任)お盆に向けてご家族から外出希望が出ている。今までは外出をご遠慮していただいていたが、このままで良いのかというところで、面会、外出について整備していきたいと思っている。窓越し面会、職員との散歩について

は低リスクとし制限はなし。中リスクとして職員介助による①外出（病院受診、選挙付き添い等）②他施設からの入所に関してはしおさいの戻られてからの対応は健康観察（3日間）。高リスクとして①直接面会（静養室）②狭い密閉空間に同席するドライブ③マスクを外す交流（飲食を伴う交流、外泊）の場合、しおさいではみなし陽性の対応として3日間は居室対応（居室での食事）、他者との交流ゼロ、職員の防護服対応を考えている。これについては3日間の居室対応となるので意見をお聞きしたい。また、中リスク、高リスクの対応の例外措置についても意見を伺いたい。

→（家族代表）仕方がないと思う。本人を動かさないほうがいい。現状維持が良い。しかし、連れ出さないといけない事情がある場合は負担があっても仕方ないと思う。居室対応とあるが、部屋に一人であることができるのか。認知症もあり無理ではないかと感じる。

→（介護主任）認知症の進行から利用者の負担になると思う。居室内に一人で過ごすことが難しい方もおられる。それが苦痛になる人もいると思う。

→（家族代表）家族間で検討して、どうしても出かけないといけないなら、実費で検査をする。しっかり検討することが大事。そのくらいの規制があっても良いと思う。家族（利用者含む）の検査の自己負担は仕方ないと思う。

→（地域住民代表）外出希望の例は？

→（介護主任）葬儀の参列や、お盆に帰りたいと希望はある。

→（地域住民代表）これだけのリスクがあることを利用者はわからないのではないか。家族が承知しているなら良いのではないか。リスクがあることは理解できる。

→（市役所職員）認定調査員の基準はないが、自宅へ訪問する際、検査対象者ではないか確認している。検査対象者なら、訪問を中止することもある。施設ならば、家族の立ち合いはせず、電話で希望の有無をやりとりする。病院に調査へ行く際は、（病院によるが）県外者と過去2週間接触があるか確認をとる。接触があると検討することとなる。大田市立病院や出雲県立中央病院は病院ごとに基準がある。何もなければ調査に入る。①県外と接触があるか②検査対象者か否かで判断。認定審査会は外部を招くため県外に仕事にでていて、審査会をどうしようかという話はあった。その場合、検査して陰性なら会議にでてもら

った。面会、外出の基準に関して、やむを得ないと思う。家族に話して了解を得られれば、できる範囲で行ったらよいと思う。

→(施設長)外泊の際は家族に自費で検査負担をお願いしたい。備蓄はあるが毎日のことで抗原検査キットもすぐなくなってしまう。拡散しないように理解をしてほしい。

### 3、サービス提供の状況

#### ○ユニット活動

・5月に開催する予定だったが、コロナで中止したため6月にお抹茶会をユニットで行った。職員がお茶をたて、飲んでもらった。お茶菓子はティラミスと、ミルクレープを準備し「どっちにしようかな」と好きな方を選択してもらった。お茶好きな方は多く、器を眺めてから飲まれるなど作法を自然とされていた。

・短冊に願いを書いて(自分で書くことができない方は職員が代筆)笹につるした。七夕の行事が終わっても一人ひとりの大切な願いを見られるようにユニットに毎年飾っている。

・7月23日 がいせ祭りの花火がふるさとユニットから見ることができるので起きておられた方と夜勤者で花火鑑賞した。「久しぶりに見た」「きれいだね」と喜んでおられた。

・定期的に遠方の娘様よりお手紙が届き職員が代読した。「あー娘です、そうですか」と嬉しそうにされていた。

・機能訓練指導員が毎日口腔体操を実施しているが、それとは別にユーチューブで健康体操を実施している。距離をとりながら手足を使い定期的に体操している。

・7月13日 法話会を行った。去年要望があった正信偈を読むと、みんなで大きな声で読まれていた。法話が聞きたくてもお寺に行くことができないとあきらめている方に対して、施設に入所しても今までの生活の延長ができるように様々な声を聞きながら考えていきたいと感じる。

#### ○食事配膳方法の変更に関して

7月より各ユニットで配膳できるように配膳車が変わった。メリットとしては、今までより早い時間に配膳できることで時間に余裕ができ、温かい物、冷たい物をそのまま、食べたいタイミングで提供することができるようになった。

次回予定

令和4年10月7日(金曜日)10時~11時